

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	厚岸町アイヌ施策推進事業
2 事業の種類	(文化振興事業) (地域・産業振興事業) (コミュニティ活動支援事業)
3 事業の目的	地域におけるアイヌ文化の着実な伝承・継承活動やさまざまな形でのアイヌ文化の発信等を通じて、次世代への円滑な継承を図るとともに、文化財の適切な保護・保存(伝承)活動を行うことで、アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活でき、その誇りが尊重される地域社会の実現を図り、もって全ての町民が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目的とする。
4 事業の概要	(1) 地域・産業振興事業 ■アイヌ関係遺物活用事業 ○事業実施主体 厚岸町 ○事業の実施場所 厚岸町海事記念館 ○事業の実施期間 交付決定の日～令和7年3月 ○事業の内容と考え方 現在、郷土資料収蔵庫(所管:海事記念館)にて保管しているアイヌ関係遺物については、鉄鍋などの生活用品や刀などの儀礼品など、道内でも数少ない貴重な遺物が多いため、それらの保存処理を行い、資料の劣化を防ぐことで文化財の保護を図るとともに、アイヌ文化の効果的な発信のため、保存処理を施したアイヌ関係遺物を海事記念館にて展示・公開することで、来館者がアイヌ文化に関わる生活などを身近に感じることができるなど、観光資源としての活用とアイヌの伝統等に関する理解の促進を図ることを目的とする。
5 アイヌ施策推進地域計画における記載	4-3 観光の振興その他の産業の振興に資する事業 ■厚岸町海事記念館展示物等充実事業 ・町内遺跡から出土したアイヌ関係遺物(金属製品)についての保存処理を行い、海事記念館にて展示・公開する。
6 事業の成果目標等	
(1) 成果目標の達成に向けた工程	(1) 地域・産業振興事業 ■厚岸町海事記念館展示物等充実事業 観光資源としての活用とアイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業であり、厚岸町海事記念館の入館者数が増えるほど効果が高まると考えられる。
(2) 成果目標、(中間)目標年度(成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)	(1) 地域・産業振興事業 厚岸町海事記念館入館者数 (現状値)令和元年度 3,916人 (中間目標)令和4年度 4,450人 (最終目標)令和6年度 4,800人 成果目標は達成する見込み
(3) 成果目標の確認方法	KPIである厚岸町海事記念館入館者数について、実績値を公表する。また、目標の達成状況について検証を行い、改善点を踏まえて計画期間内の事業実施に反映する。
7 地域の概要	

<p>(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題</p>	<p>厚岸町においては、16世紀から18世紀にかけて築かれたとされるチャシ跡が埋蔵文化財として27カ所登載されているとともに、明治時代に屯田兵の入植地を調査し適地を探した、アイヌ民族である太田紋助の墓碑が太田地区の報国寺境内に祀られているなど、アイヌ民族の痕跡が多数残されている。</p> <p>また、「蝦夷三官寺」の一つである国泰寺の住職による記録「日鑑記」には、アイヌ民族と寺院との関わりが多数記録されているとともに、松前藩のアイヌ資料「夷酋列像」には、アッケシ場所を統括していたイコトイをはじめアッケシに関係する5人のアイヌが描かれており、当時のアッケシがこのようなアイヌの有力者を輩出していた地域であったことが広く知られている。さらに、江戸時代の北方探検家の最上徳内は、アッケシアイヌの協力を得てクナシリ・エトロフへの調査を実施したとされていることから、厚岸町は、先住民族であるアイヌ民族の歴史を色濃く残しているまちである。</p> <p>昭和58年7月には「北海道ウタリ協会厚岸支部」(平成26年4月から「厚岸アイヌ協会」)が設立され、湾月生活館を拠点とする活動やアイヌ民族の慰霊祭である「イチャルバ」を開催するなど、先住民族であるアイヌの尊厳を確立するため、人権・民族に基づくあらゆる障壁を克服し、その社会的地位の向上と文化の保存・伝承及び発展に寄与してきた。また、江戸時代末期にニシン漁で栄えていた頃、厚岸に渡ってきた南部地方の漁師たちによって伝えられた神楽とアイヌ民族の踊りが融合して現在に至っている民族芸能である「厚岸かぐら」の保存・伝承を目的に結成された「厚岸かぐら同好会」は、町民文化祭芸能発表会などの町内の各種催し物で「厚岸かぐら」を披露するなど、アイヌ文化の伝承を図ってきた。さらに、厚岸町教育委員会では、厚岸町郷土館にアットウシやアイヌ細工・マキリの鞘・針入れ・キセル・タマサイなどの民具、厚岸町海事記念館にイタオマチブ(板綴船)を展示しており、アイヌの歴史や文化を学ぶ機会の充実とともに、アイヌ文化に対する町民の意識向上を図っている。</p> <p>このように「厚岸アイヌ協会」や「厚岸かぐら同好会」などによるこれまでの取組や、厚岸町教育委員会各施設におけるアイヌ民族に関連する展示品など、町内でのアイヌの歴史や文化を学ぶ機会は相当程度あり、町民の関心は高まりつつあるものの、「厚岸アイヌ協会」や「厚岸かぐら同好会」の会員数の減少や高齢化などにより、文化の伝承・継承活動を行うことが困難になっているとともに、その担い手が減少しており、次世代への円滑な継承が喫緊の課題であるほか、アイヌは文字を持たない民族のため、残されている資料が非常に少なく、現存する資料の効果的な活用と保存が必要である。</p> <p>さらに、「厚岸アイヌ協会」の活動拠点であるとともに、地域住民の集会施設として活用されている湾月生活館については、近年老朽化が著しく、日常的な利用にも支障を来しており、改修の要望も多い状況にある。このほか、民族共生象徴空間の開業に合わせて多くの観光客を受け入れるため(民族共生象徴空間の主要施設の一つである国立アイヌ民族博物館には、厚岸町が貸与品としている厚岸湖岸発掘のイタオマチブ(板綴船)1艇が展示される)、厚岸町海事記念館のアイヌに関するさらなる機能充実を図る必要がある。</p>
<p>(2) 施設等の管理運営体制</p>	<p>厚岸町海事記念館は厚岸町教育委員会、湾月生活館は厚岸町が管理している。</p>
<p>(3) アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制</p>	<p>「厚岸アイヌ協会」「厚岸かぐら同好会」とは常に情報を共有し、意見交換を行っている。また、各種事業に対する支援を行っている。</p>

8 収支予算

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
国庫補助金	2,472,000	956,800	1,515,200	0
市町村負担額	618,000	239,200	378,800	0
計	3,090,000	1,196,000	1,894,000	0

(2) 支出の部

経 費 区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
地域・産業振興事業	3,090,000	1,196,000	1,894,000	0
・地域・産業振興事業費	3,090,000	1,196,000	1,894,000	0
委託料	3,090,000	0	3,090,000	0
備品購入費	0	1,196,000	0	1,196,000
合計	3,090,000	0	3,090,000	0
委託料	3,090,000	0	3,090,000	0
備品購入費	0	1,196,000	0	1,196,000